

2025(令和 7)年度 事業所評価結果

- 保護者等からの事業所評価の集計結果
(放課後等デイサービス)
- 事業所における自己評価結果
(放課後等デイサービス)
- 事業所における自己評価総括表
(放課後等デイサービス)

2026(令和 8)年 2 月 26 日

一般社団法人 虹色
こどもデイサービス夢色 三佐事業所

【公表】保護者等からの事業所評価の集計結果（放課後等デイサービス）

| 事業所名 | | 公表日 | | | | 利用児童数 | 回収数 |
|-------------------|--------|-----------|---------------|-----|-------|---|--|
| こどもデイサービス夢色 三佐事業所 | | 令和8年2月26日 | | | | 11 | 8 |
| | チェック項目 | はい | どちらとも いえない | いいえ | わからない | ご意見 | ご意見を踏まえた対応 |
| | | 環境・体制整備 | 1 | 6 | 1 | | |
| | 2 | 4 | 1 | 0 | 3 | | |
| | 3 | 6 | 0 | 0 | 2 | | |
| | 4 | 6 | 0 | 0 | 2 | | |
| 適切な支援の提供 | 5 | 7 | 0 | 0 | 1 | | |
| | 6 | 4 | 1 | 0 | 3 | | |
| | 7 | 7 | 0 | 0 | 1 | 話をよく聞いてくれ支援内容に反映してくれている。本人のできること、苦手なこと、今後取り組んでもらいたいことなどが計画書に盛り込まれていて実施されていると思います。 | 引き続き、お子さんとご家族のニーズ、お子さんの特性や得意・不得意等を踏まえた上で計画を作成したいと思います。 |
| | 8 | 7 | 0 | 0 | 1 | | |
| | 9 | 8 | 0 | 0 | 0 | | |
| | 10 | 6 | 0 | 0 | 2 | | |
| | 11 | 0 | 5 | 1 | 2 | | |
| 保護者への説明等 | 12 | 7 | 0 | 1 | 0 | | |
| | 13 | 7 | 0 | 1 | 0 | | |
| | 14 | 4 | 1 | 1 | 2 | 講演会や研修、作品展示などの情報をパンフレットなどのお知らせで提供してもらっています。 | ご家族に対する特別なプログラム提供はありませんが、各種情報の提供に努めてまいります。 |
| | 15 | 8 | 0 | 0 | 0 | 送迎時やメールにて子どもの様子を伝えたり、その日の様子を伝えてもらったりすることで情報の共有ができています。 | |
| | 16 | 6 | 0 | 1 | 1 | | |
| | 17 | 8 | 0 | 0 | 0 | | |
| | 18 | 1 | 1 | 3 | 4 | | |
| | 19 | 7 | 0 | 0 | 1 | | |
| | 20 | 8 | 0 | 0 | 0 | | |

| | チェック項目 | はい | どちらとも いえない | いいえ | わからない | ご意見 | ご意見を踏まえた対応 |
|---------|---|----|---------------|-----|-------|--|--|
| | 21 定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。 | 2 | 1 | 0 | 5 | | |
| | 22 個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。 | 7 | 0 | 1 | 0 | | |
| 非常時等の対応 | 23 事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。 | 5 | 0 | 0 | 3 | | |
| | 24 事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。 | 3 | 0 | 0 | 5 | | |
| | 25 事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。 | 5 | 0 | 0 | 3 | | |
| | 26 事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際状況等について説明がされていると思いますか。 | 7 | 0 | 0 | 1 | | |
| 満足度 | 27 子どもは安心感をもって通所していますか。 | 7 | 0 | 0 | 1 | 他の子どもさんと一緒に遊ぶことはなかなか難しいですが、デイの先生たちには本人なりに要求を表現して楽しく安心して過ごしているようでうれしいです。先生方も本人の特性をよく理解して下さり、気分や体調に応じて対応して下さい感謝しています。家庭や学校以外に本人が楽しく過ごせる場所ができれば有難いです。 | 今後も、お子さんやご家族に安心してご利用いただけるよう配慮していきたいと思えます。引き続き、よろしくお願いたします。 |
| | 28 子どもは通所を楽しみにしていますか。 | 6 | 1 | 0 | 1 | | |
| | 29 事業所の支援に満足していますか。 | 7 | 0 | 0 | 1 | | |

その他のご意見

【公表】事業所における自己評価結果（放課後等デイサービス）

| 事業所名 | | こどもデイサービス夢色 三佐事業所 | | 公表日 | 令和8年2月26日 | |
|----------|----|--|----|-----|--|--|
| | | チェック項目 | はい | いいえ | 工夫している点 | 課題や改善すべき点 |
| 環境・体制整備 | 1 | 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。 | 3 | 1 | | |
| | 2 | 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。 | 0 | 4 | 体調不良等による職員の急な欠勤によって人員が不足する場合には、法人内の他事業所・他部門と連携して対応している。 | 児童の状態によっては規定の人員配置であっても少ないと感じるときがある。 |
| | 3 | 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。 | 4 | 0 | 事業所内は基本的にバリアフリー構造であるが、ケガ等を防止ためのフロアマットの厚みによる段差があるので職員が留意している。 | |
| | 4 | 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。 | 4 | 0 | | |
| | 5 | 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。 | 4 | 0 | | |
| 業務改善 | 6 | 業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。 | 4 | 0 | | |
| | 7 | 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。 | 4 | 0 | 保護者向け評価表を使用し、紙面だけでなく、スマホ等からWeb上でも回答できるようにしている。 | |
| | 8 | 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。 | 4 | 0 | | |
| | 9 | 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。 | 3 | 1 | | |
| | 10 | 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。 | 1 | 3 | 業務に差し支えない範囲で外部研修に参加するようにしており、オンライン研修にも参加できるよう通信環境や機器を整えている。 | パート職員を含めた全職員が同時に研修を受講することが難しいので、内容によっては動画視聴等の方法により個人単位で学習できるようなコンテンツを随時作成中である。 |
| 適切な支援の提供 | 11 | 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。 | 4 | 0 | ホームページで公表している。 | |
| | 12 | 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。 | 4 | 0 | 日頃の記録から子どもの肯定的側面と否定的側面を抽出し、子どもの課題を多面的に捉えるよう心がけている。 | |
| | 13 | 放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。 | 4 | 0 | | |
| | 14 | 放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。 | 4 | 0 | | |
| | 15 | こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。 | 4 | 0 | | |
| | 16 | 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。 | 4 | 0 | | |
| | 17 | 活動プログラムの立案をチームで行っているか。 | 2 | 2 | 活動プログラムの立案はその日の担当者が個別に行っているが、行事等の立案はチームで行っている。 | ミーティング等で活動内容や実施方法等についてフィードバックを行い、次回以降に活かしていく。 |
| | 18 | 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。 | 4 | 0 | 子どもの心身の状態や能力等に応じ、日々創意工夫しながら、常に新しいプログラムを取り入れている。 | 新しいプログラムの導入時には、職員間でシミュレーションをしたりして、事前に工程や難易度の確認を行う。 |
| | 19 | こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。 | 4 | 0 | コミュニケーションや社会性に関する課題については集団活動や自由遊びで、日常生活や学習に関する課題については個別に対応するよう計画を作成している。 | |

| | チェック項目 | はい | いいえ | 工夫している点 | 課題や改善すべき点 | |
|--------------|--------|--|-----|---------|--|---|
| | 20 | 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。 | 4 | 0 | 必ず始業ミーティングを行い、前営業日の振り返りを行うとともに、その日の役割分担や留意事項等について確認している。 | |
| | 21 | 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。 | 4 | 0 | 必ず終業ミーティングを行い、その日の子どもの状況を確認し、課題等については次回以降の支援内容や方法を検討している。 | 終業ミーティングに参加できない職員には、翌日の始業ミーティングの際に伝達する。 |
| | 22 | 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。 | 4 | 0 | 記録漏れや記載ミス等がないよう、記録者とは別の者が二重チェックをするようにしている。また、日々の記録から子どもの肯定的側面と否定的側面を抽出し、確認している。 | |
| | 23 | 定期的モニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。 | 4 | 0 | モニタリング時期に過去の記録からトピックを拾い上げ、計画の見直しに反映させている。 | |
| | 24 | 放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。 | 4 | 0 | | |
| | 25 | 子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。 | 4 | 0 | | |
| 関係機関や保護者との連携 | 26 | 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。 | 4 | 0 | 基本的には児童発達支援管理責任者が参画している。児童発達支援管理責任者が参画できないときは児童指導員が代理で参画する。 | やむを得ず誰も参画できない場合は、児童発達支援管理責任者が子どもの状況や課題を記載した書面を作成し、相談支援事業所に提供している。 |
| | 27 | 地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。 | 4 | 0 | | |
| | 28 | 学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。 | 4 | 0 | 年間・月間の行事予定や下校時刻等については、学校からの配布文書・メール・ホームページ等で随時確認している。また、学校の先生とは送迎時に様々な情報を共有している。 | |
| | 29 | 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。 | 4 | 0 | 機会があれば、就学前のサービス担当者会議等に参加し、就学前に利用していた事業所等から情報を得ている。 | |
| | 30 | 学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。 | 4 | 0 | 卒業前に移行支援会議等が行われる場合には、児童発達支援管理責任者が出席し、それまでの事業所での様子や課題などの情報を提供している。 | |
| | 31 | 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。 | 2 | 2 | 法人内に発達支援の経験のある専門職（作業療法士等）がいるので、特に外部からの助言は受けていない。研修については、機会があれば受講している。 | |
| | 32 | 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。 | 0 | 4 | | |
| | 33 | （自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。 | 1 | 3 | | |
| | 34 | 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。 | 4 | 0 | 平日頃、送迎時に子どもの状況を保護者に伝えるようにしている。送迎時に保護者に会わない場合は、電話・メール・LINE等で情報のやり取りをしている。 | |
| | 35 | 家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。 | 1 | 3 | 保護者に対する特別な支援（プログラム）は実施していないが、必要に応じて助言等は行っている。 | |
| | 36 | 運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。 | 4 | 0 | 利用契約時に対面で書面をもって説明している。利用者負担の変更等があった場合には、その都度、書面を発行し、確認してもらっている。 | |
| | 37 | 放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。 | 4 | 0 | | |
| | 38 | 「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。 | 4 | 0 | | |
| | 39 | 家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。 | 4 | 0 | 相談があった場合には適切に対応し、必要に応じて関係機関等を紹介している。 | |

| | チェック項目 | はい | いいえ | 工夫している点 | 課題や改善すべき点 | |
|----------|--|--|-----|--|--|--|
| 保護者への説明等 | 40 | 父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。 | 0 | 4 | | |
| | 41 | 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。 | 4 | 0 | 苦情受付体制については、利用契約時に重要事項説明書において説明している。苦情等があった場合には、事実関係の確認を行ったうえで適切に対応している。 | |
| | 42 | 定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。 | 2 | 2 | 会報等はないが、公式LINEアカウントにて感染症の発生状況や荒天時の営業情報など様々な情報を随時発信している。 | |
| | 43 | 個人情報の取扱いに十分留意しているか。 | 4 | 0 | | |
| | 44 | 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。 | 4 | 0 | 子どもが意思疎通しやすい職員が対応するなどの配慮をしている。送迎時に会わない保護者とは、電話・メール・LINE等で情報を共有している。 | |
| | 45 | 事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。 | 0 | 4 | | |
| 非常時等の対応 | 46 | 事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。 | 2 | 2 | 職員には事業所内掲示等で周知しているが、保護者への周知は不十分である。 | 各種マニュアルを電子化し、Web上で閲覧できるように、取り組んでいく。 |
| | 47 | 業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。 | 2 | 2 | 屋外活動時に避難経路・避難場所の確認を行っている。非常災害時に事業所内に留まざるを得ない状況を想定し、長期保存水や非常食を購入し、保管している。 | |
| | 48 | 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。 | 4 | 0 | 利用契約時にアレルギーやてんかん発作の有無、服薬状況などを確認している。 | |
| | 49 | 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。 | 1 | 3 | 医師の指示書がある児童はいない。 | 事前に保護者から情報を収集し、その内容により必要があれば保護者を通じて医師等から指示をもらうようにしている。 |
| | 50 | 安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。 | 4 | 0 | | |
| | 51 | 子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。 | 4 | 0 | | |
| | 52 | ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。 | 4 | 0 | 子どもの問題行動を含む特異な事象を日々の記録から抽出するとともに、ヒヤリハット報告書を作成し、月単位で集計・分析している。 | |
| | 53 | 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。 | 3 | 1 | 虐待防止に関する研修会には積極的に参加し、また啓発資料等を事業所内に掲示している。 | 県主催の研修会等は参加人数が制限されることが多いので、法人内参加者からの伝達講習や動画視聴によるオンデマンド受講等の対応をとる。 |
| 54 | どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。 | 3 | 1 | 常時の身体拘束が必要となるような子どもが現在はいないが、身体拘束マニュアルにしたがって対応することを基本としている。 | | |

【公表】事業所における自己評価総括表（放課後等デイサービス）

| | | | | |
|-----------------|-------------------|----|----------|---|
| ○ 事業所名 | こどもデイサービス夢色 三佐事業所 | | | |
| ○ 保護者評価実施期間 | 令和8年1月23日 | ～ | 令和8年2月7日 | |
| ○ 保護者評価有効回答数 | 対象者数 | 11 | 回答者数 | 8 |
| ○ 従業者評価実施期間 | 令和8年1月23日 | ～ | 令和8年2月7日 | |
| ○ 従業者評価有効回答数 | 対象者数 | 5 | 回答者数 | 4 |
| ○ 事業者向け自己評価表作成日 | 令和8年2月25日 | | | |

○ 分析結果

| | 事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること | 工夫していることや意識的に行っている取組等 | さらに充実を図るための取組等 |
|---|---|---|---|
| 1 | 日頃の児童の様子を保護者に伝え、現在の課題と長期的な目標の達成に向けて情報共有を徹底されている。 | 児童の家庭での様子や保護者の困りごとを聞き出し、スタッフ間で共有している。 | 共有した情報をもとに関係各所に必要があれば連絡し、児童の状態に合わせた支援が行えるようにする。 |
| 2 | 児童の特性に合わせた支援や、保護者のニーズや課題が客観的に分析され、放課後等デイサービス計画が作成されている。 | 計画作成時には、職員と、保護者の意見等をよく話し合い、都度変更、調整を行っている。 | 日々の児童の様子をしっかりと観察し、問題点をスタッフ間で共有するとともに、保護者への声掛けを行い、困りごとの内容を把握できるよう、コミュニケーションを取っていく。 |
| 3 | 児童たちが楽しんで通所することができている。 | 年間を通して、季節にあった行事を取り入れている。また、集団活動を通して苦手なことに挑戦する機会を作り、楽しんで参加できるよう支援している。 | 様々な児童の特性を活かした活動内容を取り入れる。また、苦手分野の克服につながるよう支援を行っている。 |

| | 事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること | 事業所として考えている課題の要因等 | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等 |
|---|--|---|---|
| 1 | 外部機関との連携や地域との交流機会がなく、地域に開かれた運営体制の構築が課題。 | 感染症の流行等により、戸外活動が減少し、地域のイベントの情報収集ができていなかったため。また、環境の変化に対応できない児童も多く、安全面の配慮を考えると地域との交流が難しかった。 | 児童を少人数のグループに分けて安全確保を行い、戸外活動に参加できるよう工夫する。また、SNSやホームページを使用し地域のイベントの情報収集を行う。 |
| 2 | 事業所のホームページやSNSの内容が保護者にあまり周知されていない。 | 感染症の発生時には保護者に通達しているが、支援内容や業務に関することがかかる内容の記載が周知されていないため。 | 保護者にホームページやSNS等の周知をしてもらえよう、送迎時等でお知らせを徹底する。 |
| 3 | 非常災害の発生に備え定期的に避難訓練が行われていることが、保護者に周知されていない。 | 避難訓練は定期的に行っているが、その内容を保護者に通達していなかったため。 | 避難時の場所を保護者にプリントやSNS、ホームページ等で周知徹底を行う。また、避難訓練の実施の際は保護者に通達しその際の様子等を報告する。 |